



3.8 国際女性デー全国統一北海道集会

連合では、3.8 国際女性デーの取り組みを春季生活闘争の一環として位置づけ、全国統一行動を展開しています。連合北海道も3月8日(土)にハイブリッド形式により集会を開催し、9産別5地区141人が参加しました。

はじめに、河原崎育子連合北海道女性委員会委員長から挨拶がありました。2025年は国際女性デー50周年、1995年の第4回世界女性会議で「北京宣言と行動綱領」が採択されて30周年の節目の年であり世界各地でイベントが開催され、ある若者がジェンダーについての課題意識を持って活動している姿に勇気もらったと話しました。また、女性委員会は男女平等社会の実現を目指した運動を進めるために他産別と連携し女性の視点で仲間がエンパワーメントしていくためのあらゆる取り組みを推進する、との決意の言葉を述べました。



司会の池山直子幹事

基調講演として、やましたひでこ公認 断捨離トレーナー 北海道断捨離協会

代表うえだ ますみ さんより、「断捨離 今の自分を整えると過去と未来の自分も整う」と題してご講演いただきました。うえださんは断捨離トレーナーになる前、建築が好きで女性の少ない建築業界や不動産業界で努力し多くの資格を取得し技術を身につけ活躍されていましたが、いわゆる男性社会で女性に責任ある仕事が任されないなど不満に感じることもあったそうです。ですが資格試験の際に一次試験は女性の割合が少なかったが二次試験では割合が増えていくなど、同じ業界で活躍する熱意ある女性の姿に励みを感じた経験についてお話しくださいました。

ご講演のポイントは次の通りです。



河原崎委員長

- 断捨離とは単に捨てることを目的に行うものではなく、心を整えることができるものであり、自分の意識を大事にするもの。
- 空間を意識することが大切。体や心と同じで、食べたら排泄する、落ち込んだ気持ちは切り替える、など入ってきたものは出ていく(捨てる)もの。
- 捨てられない物と向き合うことで自分の価値観を見つめなおすことになる。
 - 執着心は物を介在して現れる
- 捨てられないのは主に3つのタイプに分けられる。自分のタイプを知る事で前に進める。
 - ・過去執着型(過去の失敗から物を持つ事で安心しようとする)
 - ・現実逃避型(物に向き合いたくないため予定をたくさん入れる)
 - ・未来不安型(無くなったら困るかも、何かに使えるかも)
- 「片付ける」ではなく「片付けるための心を整える」ことがメイン
- 大切にするのは物ではなく自分
- 断捨離によってあらゆる物事を前向きに捉えられるようになった



講師のうえだますみさん

産別報告では、全労金の上杉副執行委員長より報告をいただきました。全労金は全国で14単組9,000名、北海道では570名からなり6割が女性、男女比率に応じて女性役員の登用を積極的に行っていること、また主に女性組合員で構成されたジェンダー平等委員会が設置され、機関誌を年6回発行、女性に関わる休暇・育児休暇についての取り組みをすすめ、平和や多様性について学習会を開催するなど活発な活動を行っていること、また委員会の開催時間を終業後から業務時間内に変更するなど、より参加しやすい工夫をしていること、積立休暇を更年期休暇や通院・治療休暇に使用できるようにしたこと、また今後はアンケートに応じてDV被害休暇の導入も進めているとの報告がありました。誰もが安心して働き続けられる職場環境を構築していく取り組みをすすめるとの力強い言葉をいただきました。



全労金 上杉さん

その後、菅原まどか女性委員会幹事が集会アピール案を読み上げ、満場の拍手により採択されました。

集会の締めくくりとして、河原崎委員長より、うえだ先生の講演では、断捨離とは心と密接にかかわっていることを知り、心を見つめなおす良い機会となったこと、そして全労金の産別報告では、誰もが参加しやすい組合活動のあり方の推進や組合員の声に寄り添った休暇制度の導入など大変参考になるものであり、女性委員会はこれからも産別報告をお願いしていき、好事例をそれぞれの産別・単組に持ち帰ってもらう活動を進めていくことを宣言し、閉会しました。



菅原まどか幹事